新春 深坂 MISAKA

それで考でえましょう。」

殿井「予算はどれくらいですか？」

福冨「お金のことは後回しで行きましょう。」

西川浩「お金はいくらでも出るそうです。」（笑い）

ウォーキング

福冨「八百名のオーナーさんに楽しんでもらおうと思えば、俳句を作りながらウォーキングをするのがいい。」

大中「マップを作ってもらいたい。」

上畠「出来た作品は短冊にして木にぶら下げるとか発表の場が欲しいですね。」

江原「マップは維持管理部会で用意します。」

司会「コースは幾つか分けるのでしょうね。」

江原「Aコース（深坂茶屋経由で溜池一周）。Bコース（もみじ谷往復）。Cコース（内日溜池往復）。Dコース（森の家周辺一周）位でしょうか。」

司会「スケッチ大会をやるとすれば、どれ位時間がかかるものですか？」

西川浩「二時間くらいで良いのでは？」

司会「午前中ウォーキング。午後よさこいソーランと言うのは？」「そんなところでしょうね。」

駐車場問題

司会「よさこいソーランということになると相当の人が集まりますよ。駐車場は大丈夫ですか。」

江原「駐車場は、市営球場の駐車場に止めてもらって、ピストン輸送しかない。」

司会「しかし、一般の人が花見に行くのに、勝手に規制できないでしょう。」

城戸「ピストン輸送と言ってもお金は取れないのではないか。」

江原「下関市に頼もう。」（笑い）

福冨「サンデンバスは？」

城戸「認可路線ではないから難しいと思うけど。」

司会「交通規制とシャトルバスの方は、どういう方法があるか調査してもらいましょう。」

江原「サービスの良し悪しで、物凄く印象が違います。交通手段や車の整理で友の会の会員がそちらに手をられると何も出来なくなります。」

司会「従来のさくら祭り参加者はどれくらいだったのですか？」

福冨「多い時で、四百人位ではないだろうか？最近ずっと少なかったと思う。」

司会「午前ウォーキングで、午後、ライブやよさこいソーランと言うことになると、食事のことが問題になると思います。」

食物、飲み物、野点

江原「オニギリとブタ汁位無料で振舞ってはどうか？」

津田「お昼は何処に居ても食べるのだから、無料にする必要は無い。以前別のところで、一回目は無料にしたところ、二回目以降も有料化できずにやめたことがある。」

江原「宣伝して千人も来るようだと、百人くらい裏方に廻らなければならない。」

西川浩「さくら友の会で、食事のことまで、手が廻らない。」

殿井「業者に弁当を売ってもらえないだろうか？」

江原「人数がはっきりしないから難しい。損はさせられん。」

司会「地元の企業やグループなどにお願いして、一店舗づつ、店を出してもらえないだろうか？ぜんざい店、おでん店、うどん店など。或いは野点なども。」

城戸「いけるかもしれん。当たってみないと分からない。地元の祭りとしてボランティアで参加をお願いすることになる。」

江原「天気が悪くて中止になったときの損失は？」

城戸「それも、覚悟して参加して貰わなければならない。」

餅つき

上畠「餅つきなどをやってくれる所はないだろうか？」

殿井「火を炊くことは難しい。消防署が許可しない。」

江原「もちつきは、消防団にやってもらったら？」（笑い）「森の家の炊事場は使える。」

舞台は

福冨「カラオケなどをやるなら舞台がいる。」

津田「舞台があって、その近くで音楽でも鳴らしておかないと、本部が何処にあるのか分からん。怪我したときなど、何処に行って良いか分からん。」

江原「救急隊のことも考えておかないといけない。」

西川浩「舞台が要るだろうか？最初は小規模でも手堅く始めないと、長続きしないと思います。毎年経験をつんで、少しづつ、手を加えていけば良いと思う。」

司会「色んな貴重な意見を頂き、ありがとうございました。会長さん。最後に何か在りますか？」

福冨「若者たち向けには、ライブやよさこいソーランなどがある。賑やかにするということでは効果的かも知れない。しかし、単に人を集めたら良いというものでもない。花を愛で自然を愛することとの直接の関係は薄い。さくら友の会に若いメンバーが増えて、その人たちがそういうものを企画するのならいいが、そういう方面に経験のない熟年組みが見よう見まねでやるのは考え物かもしれない。よく考えましょう。今日は有難うございました。」

桜四方山

「さくら祭り」、「桜フェスティバル」、「さくらフェスタ」など色々な名が提案された。悪くはないが「祭」、「フェスタ」、「フェスティバル」では変わり映えがしない。何かいい名はないかとブレーンストーミングをした。ある人が国語辞典から引っ張り出した「さくらえ」という言葉を使って、「深坂さくらえ」と提案した。「さくらえ」とは何だ。平安時代から鎌倉時代に、桜に感謝して開いた法会（ほうえ）を桜会（さくらえ）といい、法会に続いて観桜会をする慣わしがあったそうである。「さくらえ」は観桜会のことらしい。漢字で書くと「桜会」となる。しかし、これをサクラカイと読むと、医療法人やテニスの愛好グループなどもあるが、大日本帝国時代の物騒な政治秘密結社や、右翼団体、暴力団などイメージの悪いものもあるようだ。だからサクラカイでなくサクラエの方がいい。

日本では花はそのまま桜を意味することが多い。花見などがそれだ。全ての花、全ての自然を桜に代表させて、「さくらえ」という名の自然に感謝する観桜会を作っていこう。「SAKURAE」がそういう趣旨のお花見として定着していけばいいということになった。